

第95話 清水と掘抜井戸

中山町 歴史散策

飲料水を確保するには、山間部にあつては、沢水を利用したり、湧水や泉の水を充てるのが一般的でした。しかし、平野部では、このような清水は得られにくく、もっぱら井戸に頼っていました。

4尺(1メートルほど)の穴を掘り、土砂が掘り上げられなくなると掘穴の上に三脚を立て、滑車(古い時代は丸太)を用いて土砂を排出しました。この掘り上げた井戸から水が汲み出せるようになると、地下水の流れを確認して、底に丸太を井桁に組み、この上に丸石で側壁を組み上げ、横圧で崩壊しないようにしました。

※参考 中山町史 中巻 第9章第2節 冷害・旱害の記録と対策

フレッシュ通信 Vol.15

若林 信さん (22歳)

- 住まい 下川
趣味 ペーパークラフト
好きな食べ物 ラーメン、白いご飯に合うもの
尊敬する人 両親

- 中山町の魅力は? のどかで安心して暮らせるところ。
中山町に足りないものは? 特に何か足りないと思ったり、不満を感じたことはありませんが、買い物するところが少ないので、買い物となると町外に出てしまいます。



今回は、若林信さんをご紹介します。若林さんは、昨年11月に開催された、青年技能者の技能レベルを競う「第52回技能五輪全国大会」に出場し、建築大工の部で見事金賞を獲得、日本一となりました。この結果を受け、今年8月には、ブラジル・サンパウロで開催される「技能五輪国際大会」へ日本代表選手として出場することが決まっています。

お仕事について教えてください

寒河江市の大沼建築という会社にお世話になってます。木造住宅の建築やリフォームをする会社で、僕は工務を担当しています。

この仕事に就いたきっかけは?

建具屋を営んでいる親戚があり、小学校の頃に材料の切れ端をもらって色々なものを作って遊んでいました。それがきっかけで、もの作りの楽しさを知り、ものを作ることが好きになり、将来は大工になりたいと考えるようになった。

技能五輪出場を目指したきっかけは?

会社の先輩も技能五輪に出場したことがあり、出てみないかと声をかけていただいたこと。技能五輪出場は、建築大工2級技能士の資格を持つことで、その試験で一定点以上を取ること

が条件となっています。専門校時代にこの条件をクリアしていたので、出場することができました。会社の全面的な協力もあり、大会の2か月前からは仕事を休ませていただき、強化練習に入り、集中して訓練することができました。

勝因は何だと思えますか?

競技のポイントは、原寸図が速く正確に描けること・木削りがきれいであることなどです。全国大会ということだけあって、他の出場者もレベルが高く、技術面で差をつけるのは難しかったです。金賞を受賞することができたのは、当日課せられた課題に臨機応変に対応できたからではないかと思っています。

今後の目標や課題を教えてください

まずは大工として一人前になること。そして、いつか自分の手で自分の家を建てるのが夢です。8月の世界大会では、入賞を目指すのはもちろん、「ものづくりが好き・楽しい」という気持ちを忘れず、課題を楽しんでいきたいです。

なかやまタイムスリップ Vol.21

今から56年前... 1959 (昭和34年) 結婚の簡素化

実践に踏出す 申合せ事項決め 生活改善



当時の結婚式の様子

昔は秋の刈入れ時を過ぎると、結婚式シーズンを迎えていました。しかし、娘を嫁に出すには田畑を売ってまで結婚費用に充てる家があったり、「娘3人いるとイロリの灰までなくなる」と言われるほど相当なお金がかかっていました。「今日はA子さんの家でムカサリ(結婚式)あるんだ。見にあべえ」と誰かが言う、花嫁を見て祝うより、式の盛大さやどんな着物やタンスなどの嫁入り道具を持つてきたかが気になるころ。格式、見栄、形式的な考えばかりが目立ってきました。

そのような現状を憂い、豊田地区の婦人会、若妻会、青年団等が中心となり生活改善運動を推進。昭和34年には「結婚簡素化に向けた申し合わせ事項」を定め、地区民の結婚に対する意識を変えたのです。

結婚申し合わせ事項は、豪華な嫁入り道具や着物、結納金、酒肴料、ご祝儀の額、これまでの格式や形式などを当時の常識の範囲内としたんですも。



案内人 すもものしずくちゃん すもものしずくちゃんの詳細はフェイスブックで